

GSカルテックス社とのキャパシタ電極用炭素材事業の合併契約締結について

記者各位

当社(社長:西尾 進路)は本日、GSカルテックス社(本社:大韓民国ソウル市 会長:許 東秀 ホ・ドンス)と、キャパシタ電極用炭素材事業の合併契約を締結しますので、お知らせいたします。

キャパシタは、瞬間的に多くのエネルギーを必要とする建設機械や鉄道などにおいて、従来、放出されていたエネルギーを電力として蓄えることでエネルギーを有効利用できる蓄電装置です。さらに今後は、太陽光発電や風力発電の蓄電向けへの用途拡大も期待されています。

このキャパシタの性能を決める重要な材料が電極に用いる炭素材です。当社の麻里布製油所では、以前から製鉄会社の電気炉電極用の炭素材(ニードルコークス※)を製造しており、世界シェア 10%以上(最高級の太物黒鉛電極用に限れば世界シェア50%以上)と、世界レベルで品質の高さが認められています。

こうした炭素材の経験を活かしキャパシタ電極用炭素材の開発を続けてきた当社は、今般、同様に高性能炭素材の開発を進めていたGSカルテックス社と大韓民国 慶尚北道亀尾(グミ)市において合併会社を設立し、生産・販売および更なる技術開発におけるシナジー効果を得るべく、麻里布製油所のコークスを原料にして、キャパシタ電極用炭素材を生産する共同事業を実施していくことにいたしました。

今後は、合併会社において2010年4月の商業開始を目指し、今年春より生産設備の建設に着手する予定です。

当社は「エネルギーの未来を創造し、人と自然が調和した豊かな社会の実現に貢献します」のグループ理念のもと、今後も、環境に配慮した技術、商品の開発を積極的に進めてまいります。

※ ニードルコークスとは、コークス(重質油を加熱した際に残る炭素の固形物)を加熱し、針状(=ニードル)の結晶が発達したもの。鉄スクラップから鉄をリサイクルするために用いられる電気炉の電極用の骨材として使われている。

以上

別添資料  [合併会社概要、キャパシタの原理、キャパシタ電極用炭素材の生産フロー](#)(PDF:96.6KB)